

調査の目的

- (1) 居心地を良くし、賑わい・活気のある都市空間・歩行者空間の創出について、実証事業を行ってその有用性を示し、理解をうながす。
- (2) 上記、公共空間等を活用した公民連携まちづくりの積極的推進方策の素案を検討する。

調査の実施内容

(1) 海外事例の整理・分析

居心地を良くし、賑わい・活気のある都市空間・歩行者空間を創出について、我が国において参照すべき海外事例を抽出し、その現状把握、参照すべき点について把握、整理した。(米国・サンフランシスコのパークレットと米国・ニューヨークのブライアントパーク)

(2) 実証事業の実施

- ・実証事業を2か所で実施した。(青森県弘前市・吉野町緑地(公園)、東京都豊島区・池袋駅前グリーン大通り(道路))
- ・実施を通じて得られた結果をもとに、今後共有すべきノウハウや情報についてとりまとめた。

(3) 公民連携まちづくりの積極的推進方策に関する検討

- ・実証事業の結果を踏まえ、推進方策に関する作業仮説を作成し、居心地を良くし、賑わい・活気のある都市空間・歩行者空間を創出する公共空間利活用について普及啓発実務に従事する民間団体と推進方策に関する意見交換を行った。(手続きの円滑化、迅速化に資するシステムや中間団体の評価、フィードバックシステム等)
- ・その結果を踏まえて、今後の推進方策をとりまとめた。

調査の成果

(1) 海外事例の整理・分析の結果 (日本への適用の観点から)

- ブライアントパーク(公園活用事例)
 - ・スポンサー料や公園利用料など時間をかけて収入源を拡大し、BID 賦課金に依存する運営からの改善が図れている点、可動イス等を活用した居心地の良い場づくり、季節・時間を問わず利用されるような運営方法等を参考とすべき。
 - ・継続的な活動のための財源確保が課題。賦課金以外の運営当初の資金調達方法、公園収益事業により運営資金を確保する方法等について検討を深める必要がある。
- パークレット(道路空間活用事例)
 - ・行政の財政的な負担を伴わずに、低・未利用な公共空間を活用して都市環境の向上を図っている点、民間の誰にでも広く公共空間利活用への参画機会が開かれている点、活用にいたる手続き事前明示性がある点等を参考とすべき。
 - ・米国と日本では道路事情が異なるため、日本では、パーキングゾーンではなく、道路空間の再配分が望まれる路線を対象に導入することが効果的。また、スポンサーとなる事業者が投資にみあう満足度を得られるインセンティブが機能する仕組みを検討すべき。